

常陸大宮市第1号の青年
海外協力隊員として活動
中の石塚幹子さんからお
便りが届きました

コスタリカ から

Hola!

オラ



(最終回)

コスタリカ共和国の言語はスペイン語。Holaは「こんにちは」の意味です。



▲保護者と畑仕事。カボチャ、ハツカダイコンなどを栽培



▲小学校でキャッサバの収穫



▲配属先の同僚と記念撮影



▲小学校の児童と記念撮影

常陸大宮市の皆さんこんにちは。コスタリカでの生活も早2年が経ち、長い間日本を離れたことで、日本の伝統、風習、食や四季折々の豊かさを改めて感じました。

コスタリカは、途上国というよりは中進国であり、熱帯特有の陽気な暖かさ、青い空、豊かな動植物、森林に海といった自然にも恵まれています。イメージする貧困地域とはまた違うと思います。村の人々は貧しく、質素に暮らしていますが、食料や水の心配はなく、ストリートチルドレン、武器を使った争いなどありません。そのためか笑顔が絶えず、「貧乏だけど幸せだよ！」と陽気に話す人たちがいます。

私は、住民の生活改善、家庭や学校菜園の充実化のために活動してきましたが、本当に難しかったです。1年目は、語学と格闘しながら彼らの生活、考え、文化、風習、農業などを学び、2年目からやっと活動らしいものが始まり、菜園の維持と技術的助言を続けました。例えば、種子の発芽について…とある学校では、古い種子か良い種子かわからないまま播く、必要以上の量を播く、土をかぶせ過ぎてしまう、という問題点がありました。そのため、発芽しなかった際、原因がわからず、やる気を下げてしまっていました。そこで、彼らに発芽実験の方法を伝え、種子の発芽率、発芽に必要な要因を知ってもらうとともに、播き方の改善を行いました。

また、販売種子は、品質が悪いため自家採種を進め、オクラとカボチャは学校で採種するようになりました。配属先と共に進めているコンポストも、5校と1コミュニティで講習会を終え、今はフォローアップに当たっています。堆肥としての価値を示すため、これを使用して対照実験を行う予定です。

私としては、菜園維持とコンポスト利用を続けてもらいたいと願っています。まだまだ一緒にやりたいことがあります。今後は共に活動してきた彼ら次第です。

私たちは、貧しさを知った時、豊かになるための協力をしたい、色々なことを伝えたいと思います。しかし、目標達成にはたくさん大変なことが含まれていて、彼らの受け入れる姿勢や自発的な意志がなければ、その協力も実を結びません。少し考え方や視点を変えること、やる気を持つことで、身近な環境や生活など、変えられることはいくらでもあると感じました。

さて、長い間お付き合いいただいた「コスタリカからHola!」も今回で最終回となります。山あり谷ありの日々で、伝えることよりも学ぶことの方が多かった2年間で、豊かな自然と温かで笑いに溢れる人たちとお別れするのは寂しくもありますが、健康にも恵まれ無事に任期を全うすることができました。

皆さん、温かいご支援本当にありがとうございました。
※石塚さんは、1月で任務を終え、日本に帰国するため、
今回が最終回となります。